

## 令和3年度第1回千代田区商工振興連絡調整会議 議事録（要約）

- 日 時：令和3(2021)年12月23日(木) 14:00~16:00
- 会 場：千代田区役所6階 601会議室
- 出席状況：出席委員13人
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、商工振興係長、商工融資係長、商工振興担当係長、商工振興担当者、観光・地方連携係担当者、事務局2名
- 議 題：(1) 商工振興基本計画の改定に向けた検討状況及びスケジュールについて  
(2) 改定計画における新たな取組(案)について

### ●…委員発言

(議事要旨)

- 1 委員委嘱
- 2 開会挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 座長・副座長の選任
- 5 議事

(1) 商工振興基本計画の改定に向けた検討状況及びスケジュールについて

<千代田区商工振興基本計画の改定スケジュールについて事務局から説明>

- (特に意見なし)

<千代田区商工振興基本計画の改定に係る検討資料について事務局から説明>

(基本構想改定による影響について)

- 「基本構想」の改定予定があると聞いている。構想が変われば、商工振興基本計画にも影響があるのではないか。

商工振興担当係長) 基本構想の改定には今後1~2年の時間を要する。改定を待たず、一旦は現行の基本構想及びちよだみらいプロジェクトに基づいて商工振興基本計画を策定し、基本構想の改定後、必要に応じて修正していく。

地域振興部長) 基本構想の方向性自体は大きくは変わらないことが想定される。修正が必要になってくる場合には、委員の皆様と意見交換を行いながら、検討していきたい。

(千代田区の人口の特徴について)

- 千代田区では、40歳代や10歳代以下の子どもの割合が他の自治体と比較して多く、千代田区に限っては少子高齢化とは言えない状況である。

商工振興担当係長) 千代田区の人口状況に合わせた施策展開が必要であると考える。

商工観光課長) 地方連携の取組みを進める中で、少子高齢化が進んでいる連携先の自

治体と千代田区とで、こういった展開ができるか考えていきたい。

(テレワークによる影響について)

- 全国的な社会状況の変化としてテレワークの推進があり、千代田区でも大企業を中心にオフィス縮小の動きがある。テレワークの推進によって区の産業に影響があるということを踏まえ、区内に新しい産業を誘致するなどの必要な取組みについて整理していただきたい。

商工観光課長) 千代田区では、週1日のテレワークの実施によって昼間人口が約1/5減ると言われている。区内経済にも大きく影響があり、危機感を感じている。区内の経済の活性化につながる取組みを検討していく必要がある。

(秋葉原のまちについて)

- 秋葉原の街の自主的な取組みを紹介させていただく。秋葉原では1990～2000年代は『電車男』の影響などもあり、オタクのまちと言われていた。近年は新しい技術を用いて世界中のオタクとクリエイターをネットワーク化しようという取組などの動きがみられ、その中で秋葉原全体のDX化やグローバル展開を進めていこうとしている。新しい技術を用いて個人のクリエイターとユーザーをつなげていくネットワークを構築するなどし、秋葉原全体でコンテンツの価値を高めていきたい。

(中小企業やスタートアップ等の振興について)

- ①まちみらい千代田が主催するような交流会の開催、②スタートアップ支援において、スタートアップ企業の方々の人材交流ができるようなオフィス整備の2点が必要ではないかと考えている。

商工観光課長) 交流の場は非常に重要であると考えている。行政でもハード面、ソフト面で交流の支援をしていきたい。

- 商工会議所千代田支部の7,300社の会員のうち約1,000社が創業5年以内の企業である。来年度、区内企業を対象として「なぜ千代田区を選んだのか」を把握するための調査を予定している。もし計画策定スケジュールと合えば、計画策定に力添えさせていただく。

商工観光課長) タイミング次第だが、ぜひアンケート結果を計画にも反映したい。

今まで区の創業支援では、ベンチャー、スタートアップ、個人事業主の方などをひとくくりにして支援をしたため、きめ細かな支援が足りなかった部分がある。

支援の対象を細分化して、メリハリをつけて支援していきたい。

## (2) 改定計画における新たな取組(案)について

<改定計画における新たな取組(案)について事務局から説明>

(スタートアップの支援について)

- 創業支援を進める中で、区内にはスタートアップと呼べる企業が増えている印象。エリアとしては秋葉原、麴町で多いように感じている。特に IT、メディア、エンタメなどは新しい事業のイメージが強く、スタートアップの定義に当てはまる企業も多数あると思われるが、HR、コンサルティング、小売などは一般的な創業・ベンチャー企業に近い。

スタートアップと一般的な起業・創業をある程度区別し、施策を検討することで、他区との差別化を図りながら千代田区ならではの取組みにしていくことが重要。

- スタートアップエコシステムの構築を目指すというのは、千代田区をシリコンバレーのような街にしたいという区の想いだと感じる。シリコンバレーでは、スタンフォード大学の学生が中心となり新たなサービスを生み出し、カリフォルニア州で次々に起業したことが始まりである。千代田区でも大学との連携に力を入れていくのが良いのではないかと。

また、何らかの技術を持っており、事業化に野心がある方々へどんな支援が必要かなどのヒアリングを行うことで、具体的な施策検討に役立てていくのが良いのではないかと。

商工観光課長) スタートアップ支援については、千代田区ならではの地域特性を活かすために、どんな分野・テーマに力をいれるのか検討し、他地域と差別化を図っていきたい。行政にはスタートアップに関する専門知識はないため、大学・企業等と連携し、ネットワーク構築していき、スタートアップ支援を進めていきたい。

- 地方の大学はスタートアップに関わる学生・卒業生を多く輩出するため、東京に拠点を構える必要があると考えているところも多い。地方と連携し、千代田区がスタートアップを支援するのも良いのではないかと。結果的に、大学等の教育機関が集積し、教育産業としてもスタートアップ支援を捉えていくことが出来るのではないかと。

#### (e スポーツ産業への支援について)

- 秋葉原では様々なお店があり、1つにまとまって何か取組みをしようという機運があり、民間事業者だけでなく行政も巻き込んでやっていければ良い。武道館等の大きな場所を使って何かやれたらいいのではないかと。秋葉原というブランドでアピールすれば、世界中から多くの人が集まることできる。

商工観光課長) 秋葉原では他の地域と比較しても e スポーツにおいて優位性があり、e スポーツを全国に波及していくハブのような役割をしていけたらと考える。区内においても秋葉原だけでなく、ヒト、カネ、情報などが他地域に広がっていく仕組みをつくり、区全体の経済活性化につなげる必要があると認識している。

- e スポーツを産業としてみると、市場の6～7割はアメリカ、中国、韓国が占めているが、中国は韓国を手本にしている。例えばソウルでは5万人規模のイベントが行われるが、常設の e スポーツ会場があり、その道のスターがいる。日本の e スポ

ーツ支援は規模の面で小さくまとまってしまっている印象がある。eスポーツはエンターテインメントとして面白くあるべきで、そのためにはスターが育つような大規模イベント、興行が大切である。成功している韓国の事例の研究をするのが良い。(商工観光課長) eスポーツのプレイヤーを増やすというよりファンを増やしていけば周辺産業も育成できると考えている。大規模イベントについては、千代田区と民間事業者等で連携し、5年後、10年後を見据えて取り組んでいきたい。ハードの面などの千代田区単体では難しいことに関しては、地方と連携しながらeスポーツ産業の支援を行うのも良いかもしれない。

座長) 大学もオンライン設備が充実しているので、各大学を会場にして、観客を入れて何らかのeスポーツイベントなどができたら良い。秋葉原単体というより、千代田区全体で広く捉えて支援していく方向で検討していただきたい。

#### (コンテンツ産業への支援について)

- 秋葉原のブランドを使って、リアル/バーチャルで個人のクリエイターが自身の活動・作品について情報発信し、ビジネスに繋がれば良い。収益化には時間がかかる場合もあるので、行政の支援が必要ではないか。
- インディーズクリエイターへの支援は大切。日本のコンテンツは世界一で、それを下支えているのはインディーズの方々であり、次のスターを目指すエンジンになっている。
- 出版社ではいつもクリエイターの卵を探しており、クリエイターを求めるニーズは高い。しかし、新たに何か作りたくても経済的に難しい方も多いと聞く。クリエイターが作品を作り続けるために、どのような支援ができるのか具体的に考えていきたい。

商工観光課長) 現在、まだ案の段階だが多様なコンテンツのインディーズクリエイターが活躍できる場を提供できないか検討している。同人誌即売会のようなものもその一つである。事務局側で様々検討を進めていく中で、皆様にもアイデアをいただいて、具体化していきたい。他の自治体の真似ではなく、千代田らしさを出していきたい。

- 秋葉原は小さな店舗が多数あるので、連携して大きな取組みができれば、新しいものを多くの人目に触れさせることができる可能性がある。

#### (商店街について)

- 神保町古書店街の成り立ちには周辺に多くの大学ができたことと密接に関係している。今後も商店街が大学と連携して一緒に取り組んでいくにはどうしたらいいのか考えている。11大学の連携ももう少し踏み込んだ連携ができればよいと思う。また、連携大学を増やしていき、千代田区全体の商工業が発展につながれば良い。

座長) 学生も古書店街にさまざまな個性がある古書店が並び、カフェやレストラン、雑貨屋さんも充実していることを知り、とても興味をもっている。SNSで大学の垣根を超えた学生同士の交流も生まれていると聞く。まちを介して人と人をつなげられたら良いのではないか。

地域振興部長) 商店街が今後活性化するには、まず人が来街する必要がある。今回スタートアップ、eスポーツ、コンテンツ産業に関する取組案を出したが、起業家、クリエイターなど様々な人が街に集まってくる仕掛けとして位置づけている。テレワークの推進による来街者の減少は避けられない中、将来的には商店街にも効果が波及することを想定し、今後のために何ができるのか、本会議の中で皆様と意見交換をしていきたい。

(地域内リソースを使った場合の優遇について)

- コンテンツ、eスポーツ等の取組みの中で、区内のリソース(クリエイター、区内事業者、区内学生)を使って何か新しい取組みをしようとしている事業者等に対し、補助金や制度融資の面で特典を付け、支援していくのが良い。

商工観光課長) 地域の中で経済を回していくという視点では、地元企業を優先した方がよい場面もあると考えられるので、検討していく。

- 区民へのメリットを念頭に置き、施策検討していく必要があるのではないか。23区では法人住民税、固定資産は都税として課税されるため、事業所がどれだけ頑張っても区民に直接影響してこない。長期的、間接的な効果も考えながら、区民に対するメリットをしっかりと考えた上で施策を取捨選択していくことが必要。

商工観光課長) 区民へのメリットを絶えず考えていく必要がある一方で、まちに人を集めるためのブランディングの部分についても都心区の役割としてあり、短期、中長期の両方を見据えて施策展開していきたい。

## 6 その他

<今後のスケジュールに係る説明>

- (特に意見なし)

## 7 閉会

座長) これにて閉会します。本日は長時間にわたり皆様ありがとうございました。